
地球のしごと教養学部 2021シラバス



暮らし、務め、稼ぎ、3つのしごとを
オンラインとフィールドワークで網羅的に学び、
これからの生きるとしごとを考える

最新版(2021年5月17日)

講義・予習会・復習会全日程一覧

黄色＝講義、白＝予習復習会、オレンジ＝レジャー、グレー＝オリエン、卒業式

No.	日程	テーマ	講座タイトル	場所	時間	講師
	6月30日(水)	オリエン テーション	教養学部2021について	オンライン	19:00～ 21:30	高浜大介、 田中新吾
	7月5日(月)	思想・哲 学1	【予習会】農山漁村の民衆精神～仕事観・ 労働観～	オンライン	19:00～ 20:00	—
1	7月7日(水)	思想・哲 学1	農山漁村の民衆精神～仕事観・労働観～	オンライン	19:00～ 21:30	内山節
	7月12日(月)	流域経済 圏	【予習会】流域経済圏と水資源～命の源流 のマネジメント～	オンライン	19:00～ 20:00	—
2	7月14日(水)	流域経済 圏	流域経済圏と水資源～命の源流のマネジメ ント～	オンライン	19:00～ 21:30	橋本淳司
	7月21日(水)		【予習会】三重・岐阜遠征全体	オンライン	19:00～ 21:00	—
3	7月23日(金) ～	日本の精 神	日本の精神～日本人の仕事観、伊勢神宮 参拝～ ※伊勢神宮の参拝は24日早朝になります。	三重県伊勢市	15:00～ 18:00	高浜大介
	7月25日(日)	祭り	祭りの精神～郡上踊り体験～	岐阜県郡上市	—	講義数には 含まれてい ない遠征中 日の予定レ ジャーです。
4		働き方、 地域づくり 1	岐阜県郡上市石徹白地区 地域づくり実録 ～オンオフが交差する家族一体での豊かな 働き方・暮らし方～	岐阜県郡上石 徹白地区	13:00～ 15:30	平野彰秀・平 野馨生里
	8月4日(水)	林業	【予習会】自伐型林業～環境保全と経済性 の両立～	オンライン	19:00～ 20:00	—
5	8月7日(土)	林業	自伐型林業～環境保全と経済性の両立～	埼玉県飯能市	9:00～ 16:00	中嶋健造・ 田中新吾
	8月23日(月)	農業	【予習会】自然栽培と固定種・在来種 ～命を繋ぐ根源的活動とは～	オンライン	19:00～ 20:00	—
6	8月25日(水)	農業	自然栽培と固定種・在来種 ～命を繋ぐ根源的活動とは～	オンライン	19:00～ 21:30	岡本よりたか
	9月6日(月)	地域商社	【予習会】地域内連携型6次産業のプロ デュース～地域資源のフル活用と農林商 工者連携～	オンライン	19:00～ 20:00	—
7	9月8日(水)	地域商社	地域内連携型6次産業のプロデュース～地 域資源のフル活用と農林商工者連携～	オンライン	19:00～ 21:30	藤川豊文

8	9月12日(日)	自然と身体性	農業体験～田んぼ作業を通じて自然の中に身を置く～	千葉県佐倉市	10:00～15:00	萩谷祐介・田沼郁恵
	9月15日(水)		【予習会】岩手遠征全体	オンライン	19:00～21:00	
9	9月18日(土)	酪農・畜産	山地酪農～24時間365日放牧、自然の摂理に寄り添った酪農・畜産業～	岩手県田野畑村	13:30～16:30	吉塚公雄
10	～ 9月20日(月)	食	地域の豊かさを再発見 食から始まる地方創生	岩手県田野畑村	17:00～20:30	伊藤勝康
11		地域づくり2	過疎農山漁村の地方創生～人口2,600人、岩手県最小自治体のSDGsまちづくり戦略～	岩手県普代村	9:00～17:30	土澤智、高浜大介
12		地域通貨	使えば使うほど繋がりが増えるお金～カヤック社まちのコイン～	岩手県普代村からオンライン	8:30～10:30	長田拓
13		広葉樹林業	広葉樹自伐型林業モデルの確立	岩手県九戸村	13:00～16:00	夏井辰徳
	9月29日(水)	地域医療	【予習会】「地域創生の統合医療＝医学モデル＋社会モデル」～リトリートはウエルネスのみならず、生活担保としての場～	オンライン	19:00～20:00	
14	10月2日～ 10月3日	地域医療	「地域創生の統合医療＝医学モデル＋社会モデル」～リトリートはウエルネスのみならず、生活担保としての場～	静岡県富士宮市	13:00～翌日11:00	山本竜隆
	10月13日(水)		【予習会】神奈川藤野遠征全体	オンライン	19:00～21:00	
15	10月16日(土)	住居	伝統的日本人家屋に学ぶ気候・風土・暮らしとつながる住まいづくり	神奈川県相模原市旧藤野町	日中	山田貴宏
16	～ 10月17日(日)	地域づくり3	僕らが変わればまちが変わり、まちが変われば世界が変わる トランジション・タウンという試み	神奈川県相模原市旧藤野町	日中	調整中
	10月25日(月)	エネルギー	【予習会】再生可能な自然エネルギー～エネルギーの地産地消～	オンライン	19:00～20:00	
17	10月27日(水)	エネルギー	再生可能な自然エネルギー～エネルギーの地産地消～	オンライン	19:00～21:30	井筒耕平
18	11月7日(日)	多様性社会1	人権問題について考えよう～ウポポイ民族共生象徴空間を訪ねて～	北海道白老町	12:00～15:00	博物館見学＋意見交換
19	～ 11月8日(月)	多様性社会2	多様性の活かし合い～弱さから始まる仕事と社会～	北海道浦川町	9:00～11:00	べてるの家見学＋意見交換
	11月10日(水)		【復習会】北海道遠征全体	オンライン	19:00～21:00	
	11月22日(月)	衣服	【予習会】天然繊維の再興～オーガニックコットン事業を通して～	オンライン	19:00～20:00	
20	11月24日(水)	衣服	天然繊維の再興～オーガニックコットン事業を通して～	オンライン	19:00～21:30	渡邊智恵子
	12月1日(水)		【予習会】徳島遠征全体	オンライン	19:00～	

					21:00	
21	12月4日(土)	サテライト オフィス	地域に溶け込むサテライトオフィス ～都会からの人材と地域を繋ぐ～	徳島県美波町	14:00～ 17:00	吉田基晴
22	～ 12月6日(月)	ゴミ・リサイ クル	ゼロウェイスト ～資源循環の輪を繋ぐ～	徳島県上勝町	日中	パンゲア フィールド (仮)
23		地域づくり 4	創造的過疎から考える地方の創生 ～徳島 県神山町の取り組み	徳島県神山町	日中	NPO法人グ リーンバレー
	12月14日(火)	教育	【予習会】遊びが学びに欠かせないわけ～自 立した学びを育てる	オンライン	19:00～ 20:00	
24	12月15日(水)	教育	遊びが学びに欠かせないわけ～自立した学 びを育てる	オンライン	19:00～ 21:30	山本幹彦
	1月12日(水)		【予習会】千葉遠征全体	オンライン	19:00～ 21:00	
25	1月15日(土)	漁業	魚食の再考 ～日本の漁業問題と近海で取 れる未利用魚のさばき方レクチャー～	千葉県君津市 周辺	日中	アクアカル チャー
26	～ 1月16日(日)	狩猟	狩猟とジビエ ～人と獣の共生関係～	千葉県君津市	9:00～ 16:00	原田祐介
	1月26日(水)		【予習会】島根遠征全体	オンライン	19:00～ 20:00	
27	1月29日(土)	福祉	コミュニティナース ～人とつながり、まちを元 気にする～	島根県雲南市	14:00～ 16:30	矢田明子
28	～ 1月31日(月)	ものづくり &地域づ くり5	石見銀山大森町 ～群言堂が考えるサステイ ナブルな地域づくり～	島根県大田市 大森町	日中	松場忠
		観光	世界遺産石見銀山、出雲大社	島根県大田 市、出雲市	日中	講義数には 含まれてい ない遠征最 終日の予定 レジャーで す。
	2月7日(月)	思想・哲 学2	【予習会】関係人口を哲学する ～「あいだ」を 生み出す都市と地方の共生とは～	オンライン	19:00～ 20:00	—
29	2月9日(水)	思想・哲 学2	関係人口を哲学する ～「あいだ」を生み出す 都市と地方の共生とは～	オンライン	19:00～ 21:30	高橋博之
30	2月13日(日)	移住しごと	移住しごと構築戦略立案	オンライン	14:00～ 16:30	高浜大介
	2月26日(日)	卒業式	地球のしごと教養学部を終えて	オンライン	日中	—

<備考>

※宿泊があり連続日程で開催される「フィールドワーク」のことを「遠征」と呼んでいます。

-
1. 今年度は【1】～【30】の「全30講座」(オンライン講座10、フィールドワーク講座20、オリエンテーションと卒業式は除く)の開講を予定しています。
 2. 7月遠征の中日、2022年1月遠征の最終日では「講義数には含まれないレジャー」を予定しています。
 3. 各講座には書籍などの「事前学習課題」があります。
 4. 各講座、フィールドワークの講座2日前に、オンラインで「予習復習会」を一時間～二時間ほど実施いたします。参加は「任意」で、日程は全て本シラバスに掲載されています。
 5. オンライン講座は、ビデオ会議システム「Zoom」を用いて行います。
 6. 講義内容、テーマは予告なく変更になる場合があります。
 7. 欠席の場合は、ほぼ全ての講義の「ビデオ受講」が可能です。また、ほぼ全ての講義で使用した資料を配布いたします。
 8. 受講生には期間中「オンラインルーム(Slack)」に入ってください感想や情報の共有をしていただいています。
 9. 遠征は「受講生に旅程を立てていただき」、受講生の皆さんで協力して講義開催地まできていただきます(詳しくは説明会、オリエンテーションでご説明いたします)。
 10. フィールドワークは「社会情勢」により中止する場合があります。その場合は「オンライン」で代替の講座を用意します。
 11. フィールドワークなどで人との接触があることが想定される場合、「基本的な感染対策」は徹底の上ご参加をお願いいたします。

7月7日(水) 19:00～21:30

【テーマ】思想・哲学1

【タイトル】

【1】農山漁村の民衆精神 ～仕事観・労働観～

【概要／狙い】

人生の長い時間を費やす仕事や労働。

仕事や労働の在りようは、その人間の幸福度に密接に関わります。

我々は、仕事や労働とは何か？について考えたことがあるでしょうか？

稼ぐため、生活していくためだけに、仕事や労働を強いられている面はないでしょうか？経済第一優先の労働観を越えるためのヒントは、内山氏の語る「温かい貨幣と冷たい貨幣」「劣化する貨幣」などにあるかもしれません。

日本の農山漁村での仕事や労働に対する考え方、価値観を紐解きつつ、貨幣とは何なのか？

日本の民衆が持っていた仕事観・労働観、そして対価としての金銭との関係性とはどのようなものか？

「おすそ分け」の贈与経済から、近年注目されているソーシャルビジネスまで、私たちが未来に求めるべき仕事の在りようについて考えます。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

内山 節 / 哲学者

【課題図書】

『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』

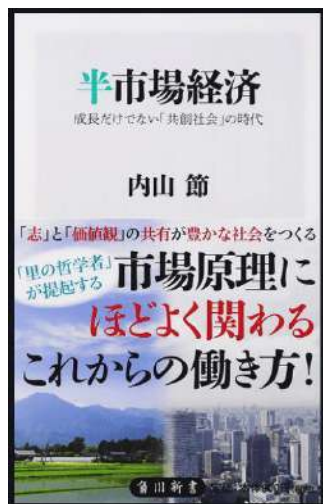
著者：内山節（角川新書）

【参考図書】

『戦争という仕事』

著者：内山節（信濃毎日新聞社）

【参考写真】



7月14日(水) 19:00～21:30

【テーマ】流域経済圏

【タイトル】

【2】流域経済圏と水資源 ～命の源流のマネジメント～

【概要／狙い】

人間の暮らし全てに共通して不可欠な要素、それは「水」です。日本は奇跡的に水資源が豊富と言われており、水のリスクを日常的に感じる機会はほとんどありません。

しかし世界を見渡せば、中国やオーストラリアなど水資源が死活問題になっている国も少なくありません。水に困らない国は珍しいのです。

しかしながら「外国人が過疎地の山を買いあさっている」「地下水量に変化がみられる」など、日本人の水資源も安泰では決してありません。

本講座では人間に必要な水資源の循環にフォーカスし、流域経済圏(※)や、地球規模で枯渇を始めている地下水に関しての知識や資源管理のリスクについて学びます。

生命の源となる水循環を起点に、流域単位で経済と環境保全の両立を図る水資源の扱い方を考え、議論します。

(※)流域経済圏とは、分水嶺から沿岸までの河川の流域圏における経済的なつながりの単位を表す。場合によっては複数の行政区域にまたがる。本来、一つの流域圏は、上流の山村から下流の漁村まで相互に関連しあい、社会、経済的に強いきずなを保有する。古来より人類は大きな河川を中心に集落を形成してきたことから流域経済圏の考え方はとても重要です。

環境循環型社会は流域経済圏内での循環からスタートすべきだと考えています。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

橋本 淳司 / アクアスフィア・水教育研究所代表

【課題図書】

『日本の地下水が危ない』 著者:橋本 淳司(幻冬舎新書)

『水道民営化で水はどうなるのか』 著者:橋本 淳司(岩波ブックレット)

【参考図書】

『環境を知るとはということか 流域思考のすすめ』

著者:養老孟司、岸由二(PHPサイエンス・ワールド新書)

【参考サイト】

[アクアスフィア水教育研究所のサイト](#)

【参考写真】



7月23日(金) 15:30～18:00

【テーマ】日本の精神

【タイトル】

【5】日本の精神 ～日本人の仕事観と伊勢神宮参拝～

【概要／狙い】

日本の精神とは何でしょうか。少なくとも言えることは、日本国は世界で一番継続している国家だということです。

建国以来、天皇のもと国民と一体となって統治する「君民一体」という体制で2600年以上存続しています。

こんな国はどこにもなく、実は地球上で一番サステナブルな実績がある国だと言えます。つまり、SDGsなど持続可能な「在り方」を追求する際に真っ先に研究対象となるのは日本という国の在り方、日本人の原理原則だと思います。

なかでも伊勢神宮は1,300年以上にわたり、日本の美しい習俗・文化を実践しています。20年に一度本殿を建て替える「式年遷宮」の考え方や、神々に奉るお供え物(神饌)を神宮内で自給自足(お供え物やお祓いに使用される御塩は、御塩浜や御塩殿で調製されます。)など、まさに日本の精神が詰まっています。

本講座では、日本の仕事観についての講義と早朝からの伊勢神宮参拝を通して、地球のしごと大學が考える持続可能な地域づくり、仕事づくりの土台となるヒントを学びます。

※伊勢神宮の参拝は24日早朝になります。

【場所】

三重県伊勢市

【講師】

高浜大介 / 地球のしごと大學 代表、株式会社アースカラー 代表取締役、一般社団法人 燈
代表理事

【課題図書】

日本人はなぜ日本のことを知らないのか (PHP新書)

著者: 竹田恒泰

【事前課題】

映画「うみやまあひだ」

<https://umiyamaaida.jp/>

【参考写真】



7月24日(土)

【テーマ】祭り

【タイトル】

祭りの精神 ～郡上踊り体験～

【概要／狙い】

日本人にとって祭りとは何でしょうか。

春夏秋冬の季節に応じて私たちの祭りがあります。春の訪れとともに豊作を祈願し、夏には台風や害虫、疫病などの被害にあわないことを願い、秋の実りに感謝を捧げ、寒さの厳しい冬には穢れを落とすなど、魂を充実させるのが、祭りの本来の意味です。

農山漁村では自然に寄り添う人々の営みがあり、日本人の季節感や自然に対する意識は祭りに凝縮されているとあって過言ではありません。

この日は岐阜県郡上市を訪れ、郡上踊りに参加したいと思います。約400年の歴史をもち、お盆には4日間昼夜いとわず歌い踊り続けるという、全国的に著名な郡上踊りを体験し、日本人にとっての祭りを体感しましょう。

【場所】

岐阜県郡上市郡上八幡

【講師】

—

【課題図書】

日本の祭り 柳田国男

【参考サイト】

[郡上踊り](#)

【参考写真】



7月25日(日)13:00～15:30(予定)

【テーマ】働き方、地域づくり1

【タイトル】

【6】岐阜県郡上市石徹白地区 地域づくり実録～オンオフが交差する家族一体での豊かな働き方・暮らし方～

【概要／狙い】

平野彰秀さんは、岐阜県郡上市石徹白地区に古くから育まれてきた文化を礎に、地域に合った循環の仕組みとして水力発電を導入し、石徹白の人が持つ精神性を未来へつなぐ活動をしています。

奥さんの平野馨生里さんは、農作業着・たつかけを現代に蘇らせ、地域に根差したものづくりを行い、販売する石徹白洋品店を営んでいます。縄文時代から続く石徹白地区の伝統を大事に、仕事を起こし、3人の子育てをする平野家族のお話は映画「おだやかな革命」にもなりました。

本講座では、1ターンで過疎集落の再生に取り組み、今や集落人口の15～20%が移住者となっている石徹白の再生ストーリーと、男児3人の子育てをしながら夫婦が別々の事業を営む秘訣をうかがいます。

【場所】

岐阜県郡上市石徹白地区

【講師】

平野 彰秀 / NPO法人地域再生機構 副理事長

平野 馨生里 / 石徹白洋品店 店主

【課題図書】

検討中

【参考サイト】

[石徹白洋品店のサイト](#)

【参考写真】



8月7日(土)9:00～16:00

【テーマ】林業

【タイトル】

【7】自伐型林業～自伐型林業～環境保全と経済性の両立～

【概要／狙い】

日本の国土の7割を森林が占めています。

「地域創生」に取り組むならば、林業の再興、国産材の有効利用にこそ力を入れるべきです。

「大規模・大量生産・集約・高投資・高コスト・委託/請負」型の林業が国策「森林・林業再生プラン」とされている一方で、土佐の森・救援隊は「小規模・少量多品目生産・分散・低投資・低コスト・自立」型の自伐林業を核とした『土佐の森方式』を確立し、地域に根ざした仕組みを展開しています。

参照: [森林再生の方途 中嶋健造さん](#)

大規模林業一辺倒では森林破壊や市場破壊が多発していますが、地域に根ざした自伐型林業『土佐の森方式』は、木質バイオマス利用のための林地残材収集や、地域林業再生、地域雇用、地域経済活性化、森林環境再生に大きく貢献し、林業市場を大きく拡大することも分かってきました。自伐型林業は森林再生や地域振興に大きく貢献します。

この情報が全国に伝播し、導入地域はすでに40以上で、気候危機時代に突入した今災害防止策としての評価もありさらに勢いを増しています。

牽引役の中嶋健造さんから日本の林業の問題点、自伐型林業の概要について学び、自伐型林業を実践している施業山林(埼玉県飯能市)の見学も行います。

【場所】

埼玉県飯能市

【講師】

中嶋 健造 / 自伐型林業推進協会 理事長

田中 新吾 / 地球のしごと大學 副理事長

【課題図書】

『小さい林業で稼ぐコツ: 軽トラとチェーンソーがあればできる』

編集: 農文協, 農山漁村文化協会(農山漁村文化協会)

【参考図書】

『New自伐型林業のすすめ』

著者: 中嶋健造(全国林業改良普及協会)

【参考写真】



8月25日(水) 19:00～21:30

【テーマ】農業

【タイトル】

【8】自然栽培と固定種・在来種 ～命を繋ぐ根源的活動とは～

【概要／狙い】

現在市場で主に流通している形の揃った野菜などの大半は農薬・化学肥料・交配種(F1種)を使った農法により大量に作られたもので、これらは毎年、資材や種を新たに買い足し与えなければ、成り立たない農法でもあります。

しかし、本来あるべき微生物の力や自然界の循環の輪、野菜の個性がそこにはありません。

本講義では講師の岡本よりたかさんが実践している「無肥料栽培」(自然栽培、自然農法)について伺います。農薬や化学肥料は一切使用せず、雑草や米ぬか、落ち葉などを肥料とし極力その土地に在るものを使います。

また、固定種・在来種の種を、種取をして次年度に繋ぎます。水や土壌、空気や虫まで、本来有る循環の輪を取り戻し、より環境と植物に寄り添った農業が可能となります。

講師の岡本さんは、農業の色々なやり方、最新の情報を精査し、地域での農業の在自然界の原理原則を理解し、作物が本来的に持つ生命力を生かす無肥料栽培を実践されていらっしゃる方で、多くの方がその方法を岡本さんから学んできております。

岡本さんから、化学肥料や農薬、種、最先端テクノロジーを使った農法など、農業界の現状について学ぶことで、食の安全安心とは何か？について考察し、これから先の農業の在り方を展望していきます。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

岡本 よりたか / 無肥料栽培家・環境活動家

【課題図書】

『無肥料栽培を実現する本』

著者：岡本よりたか（マガジンランド）

【参考図書】

『続・無肥料栽培を実現する本』

著者：岡本よりたか（マガジンランド）

『種は誰のものか？』

著者：岡本よりたか（veggy）

【参考写真】



9月8日(水) 19:00～21:30

【テーマ】地域商社

【タイトル】

【9】地域内連携型6次産業のプロデュース～地域資源のフル活用と農林商工者連携～

【概要／狙い】

地域の自立のためには、地域資源を有効活用して、外貨を獲得する必要があります。そのような意味で、地元の特産品を使った商品開発や六次産業化が有効な手立てではありますが、まだまだ地域資源を生かし地域にお金が循環する仕組みが作れていない地域が多いのが現状です。

また、都市へ地域資源を流すことで従属的な関係になったり資源枯渇に陥ったりするのではなく、地域資源の保全と再生産が適切に行われ、地域が豊かになる在り方を作る必要があります。

そこで、今注目を集めているのが、地域をまるごとプロデュースして地域外からのお金の流れを作る「地域商社」です。

高知県本山町にある木材加工ベンチャーばうむ合同会社の木製品は、大手ブランドからも受注が相次いでおり、東急ハンズでもその商品が取り扱われています。

なかでもレーザーカッターを活用した木材製品の評判が高く、その付加価値は、原木価格の150倍にまで上ります。しかしながら、高知県嶺北地域は豊富な森林資源に恵まれているにも関わらず、木材価格の低迷によって十分な森林整備が行われていない現状があります。

ばうむ合同会社では、木材の利用を促進し、木材価格の向上を図ることで自社も、地域も、自然環境も守られる地域が持続する商売の確立を目指しています。

木工品以外にも、地元ブランド米を活用した、焼酎の製造販売も行うなど、地域をまるごとプロデュースする地域商社の先駆的存在です。

本講座では、ばうむ合同会社がどのような考えで地域資源をとらえ、どのような方法で地域資源のプロデュースを行っているのかを学び、地域商社に必要なエッセンスを学びます。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

藤川 豊文 / ばうむ合同会社 代表

【課題図書】

『2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望』

著者: 落合陽一(SBクリエイティブ)

【参考図書】

『まだ林業で消耗してるの? 「ばうむ」代表・藤川豊文さんから、自然を守る林業を学ぶ

』Kindle版

著者: イケダ ハヤト、藤川 豊文(イケハヤ書房)

【参考写真】



9月12日(日)10:00～15:00(予定)

【テーマ】自然と身体性

【タイトル】

【3】農業体験～稲刈りを通じて自然の中に身を置く～

【概要／狙い】

千葉県佐倉市にある当大学の連携農園では、自然にも人間にも負担の少ない無農薬・無化学肥料でのお米作りを通して、ホタルが舞い飛ぶような環境作りをしています。

地球のしごと大学では「循環型農業学部」や「my田んぼ部」「my大豆&味噌づくり部」などを運営しています。

本講義では教養学部受講生の初顔合わせの場として、無農薬栽培の田んぼの草取りを行います。日本の伝統的な稲作を体験し、協働作業を通して親睦を深めます。

吹く風が気持ちのよい初夏の里山で、五感をつかって自然を感じましょう。お昼は羽釜で美味しいご飯をつくり、皆でいただきます。

【場所】

千葉県佐倉市

【講師】

萩谷 祐介 / 地球のしごと大学 耕さない田んぼ学部・循環型農業学部 担当

田沼 郁恵 / 地球のしごと大学 循環型農業学部 担当

【課題図書】

『虫眼とアニ眼』

著者：養老 孟司、宮崎 駿(新潮文庫)

【参考写真】



9月18日(土) 13:30～16:00

【テーマ】酪農畜産

【タイトル】

【10】山地酪農～24時間365日放牧、自然の摂理に寄り添った酪農・畜産業～

【概要／狙い】

小さな牛舎に繋がれ、糞尿にまみれて生活する牛たち。安くて濃い牛乳を美味しいとして売り込む乳業界。本来の牛乳の美味しさとは、私たちが飲みたい牛乳とは、どんなものでしょうか。

今回学ぶのは、東北は岩手県田野畑村にある山地酪農。広大な牧山に放牧された乳牛が、四季を通してニホンシバを中心に野草と湧水を求め歩く。食べたいときに好きなだけ新鮮な草を食べ、飲みたいときに美味しい川水を飲み、寝たいときに好きなだけ寝る。

そんな牛たちは自然にもっとも近い環境の中で生活し、ストレスを感じることなく、のんびりと暮らしています。しかしながら通常の酪農とは手法が異なるため、業として確立するには大変な苦勞がありました。

本講義では、約40年前に田野畑村に移住し、山林を開拓し「山地酪農」を実現した吉塚公雄さん一家からお話を伺います。吉塚一家を取材したドキュメンタリー映画【山懐に抱かれて】は2019年にヒットしました。

また、山地酪農の牛乳から製造したチーズ「白仙」は、「NIPPONの宝物」岩手大会2019の＜スイーツ・新体験部門＞で、審査員満場一致のグランプリ、JAPAN大会2019＜最強素材部門＞では準グランプリを受賞した、“国内唯一”の山地酪農法から作られるミルクの「グラスフェッドチーズ」ということで大人気です。

【場所】

岩手県田野畑村

【講師】

吉塚 公雄 / 田野畑山地酪農株式会社

吉塚 雄志 / milk port NAO

【課題図書】

特に無し

【参考サイト】

[映画「山懐に抱かれて」【公式サイト】](#)

[山地酪農チーズ 白仙](#)

【参考写真】



9月18日(土) 17:00～20:30

【テーマ】食

【タイトル】

【11】地域の豊かさを再発見。食から始まる地方創生

【概要／狙い】

地域の豊かさとは何だろうか。食は間違いなくその地域の豊かさのバロメーターであり主役である。

土地の風土から生み出される食材。風土を知ること最適な調理法や豊かさの表現が可能になる。

本講座では、地域の農林水産業に従事する生産者とダイレクトにつながり、長年、一流のテロワールを表現する料理店を展開してきた伊藤勝康シェフから、人(生産者)、文化、歴史、環境を再認識してその土地にしかないものを掘り起こし、食を通じて新たな価値創造に挑戦してきたお話をうかがう。

講座終了後は、北三陸の食材をふんだんに使用した、伊藤シェフのディナーを皆でいただく。

【場所】

岩手県田野畑村

【講師】

伊藤 勝康 / ロレオール田野畑 シェフ

【課題図書】

未定

【参考サイト】

[ロレオール田野畑村のホームページ](#)

【参考写真】



9月19日(日)9:00～17:30

【テーマ】地域作り2

【タイトル】

【12】過疎農山漁村の地方創生～人口**2,600**人、岩手県最小自治体のSDGsまちづくり戦略～

【概要／狙い】

2040年までに、全国の自治体の半数が将来的な「消滅」の危機にさらされる。人口が1万人を切る523自治体は、その可能性が大きい。

岩手県普代村は約人口約2,600人。徐々に人口は減り続け、このままでは消滅してしまう。しかし普代村は不思議と幸福度が高い村だ。

商工業者は若手を中心に元気に小さな商店街を運営している。毎年行われるお祭りは役場も村民も一丸となって盛り上げる。普代駅にあるスナックは皆から愛され今日も繁盛だ。

しかし人口は着実に減り続けている。どうにかせねばと普代村役場は子育て環境の充実と移住者誘致を図り、様々な施策を打ち出している。

NPO法人地球のしごと大學と連携して、森のようちえん「つちのこ保育園」も2021年4月より運営を開始した。村の観光宿泊拠点である国民宿舎くろさき荘では企業のワーケーション研修の企画も立ち上がった。

本講座では、普代村の地方創生政策を中心となって推進する特命課長(岩手県庁からの出向職員)を招いて過疎自治体の思考と行動様式を学び、普代村の地域資源の視察や村民や役場職員との交流をして地方創生に係るリアルな政策について議論しよう。

【場所】

岩手県普代村

【講師】

土澤 智 / 岩手県ふるさと振興部 県北・沿岸振興室 特命課長(市町村支援・普代村駐在)

高浜 大介 / 地球のしごと大學 代表、株式会社アースカラー 代表取締役、一般社団法人 燈
代表理事

【課題図書】

地元経済を創りなおす——分析・診断・対策 (岩波新書)

著者: 枝廣淳子

【参考サイト】

【参考写真】



9月20日(月・祝)8:30～10:30

【テーマ】地域通貨

【タイトル】

【13】使えば使うほど繋がりが増えるお金～カヤック社まちのコイン～

【概要／狙い】

グローバル資本主義とは一線を画したローカル循環型経済こそこれから重要になります。そのためには、お金の仕組みそのものを地域に取り戻すことが真の意味での地域の自立に繋がります。面白法人カヤック社の開発している「まちのコイン」は、まちを舞台にゲームのように楽しみながら、自然と誰かと仲良くなったり、地域活動やお手伝いごとに関わったりする機会をつくる、地域限定でのコミュニティ電子通貨です。

本講座では、カヤック社のまちのコイン普及担当である長田拓さんを講師にお呼びし、地方創生xまちのコインについて現状と展望を解説してもらいます。

【場所】

岩手県普代村からオンライン

【講師】

長田拓 / 面白法人カヤック

【課題図書】

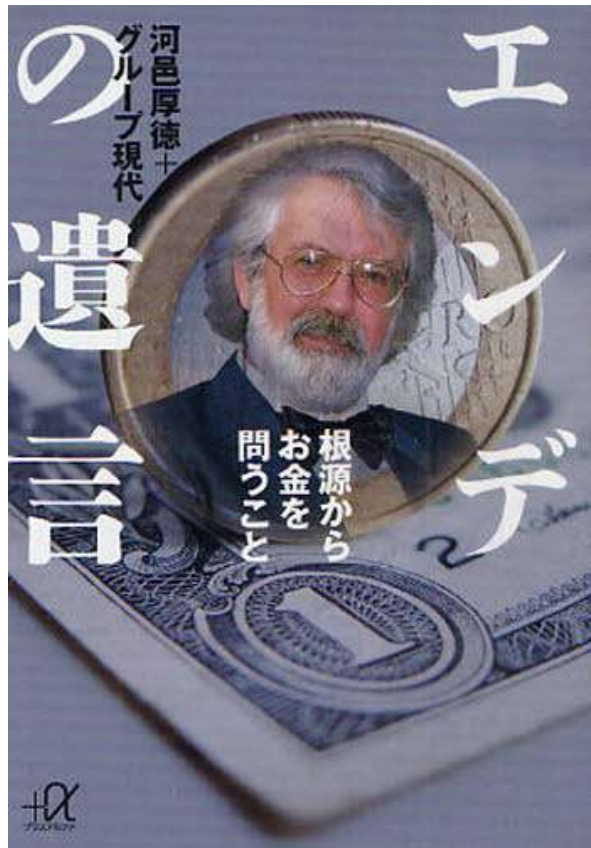
エンデの遺言 根源からお金を問うこと

【参考サイト】

まちのコイン

<https://coin.machino.co/>

【参考写真】



9月20日(月・祝日) 13:00～16:00

【テーマ】広葉樹林業

【タイトル】

【14】広葉樹自伐型林業モデルの確立

【概要／狙い】

岩手県九戸村にて、日本一の広葉樹施業を行っている山林との評価も有る「九戸山族」の山林を視察します。

広葉樹林は、日本の森林面積の半分以上を占める重要な資源であるにも関わらず、長らく林業政策の対象外(針葉樹林、人工林が対象)とされ、お金にならない「雑木(ザツボク)」として扱われてきました。

また林業経営の維持において、天然広葉樹の施業は非常に難易度が高く、実現は不可能とまで言われていました。しかし、九戸山族は、土地に古来より潜在する天然広葉樹林の本来の力を最大限に引き出す手業を創り上げました。この成果から、九戸山族は広葉樹林を育む日本有数の自伐型林業チームと評され、全国各地の林業関係者、地方創生関係者が視察に訪れています。

また、広葉樹施業による森林経営の特徴は、主に原木(丸太)を一般流通に乗せて販売する針葉樹施業と異なり、付加価値のある製品を自ら生み出し、マーケティングを行って、流通を組み販売することができる点にあります。自分で管理した山の樹木を、自ら加工して消費者に届ける、ここにも広葉樹を扱う醍醐味の一つがあります。

本講座にて広葉樹林業について学びましょう。

【場所】

岩手県九戸村

【講師】

夏井 辰徳 / 九戸山族 代表

【課題図書】

なし

【参考サイト】

[九戸山族の施業紹介、代表夏井さんの考え](#)

【参考写真】



10月2日(土)13:30 ~ 10月3日(日)11:30

【テーマ】地域医療

【タイトル】

【15】「地域創生の統合医療＝医学モデル＋社会モデル」

～リトリートはウエルネスのみならず、生活担保としての場～

【概要／狙い】

代替医療とは、現代西洋医療の領域外の医学・医療体系を総称したものです。

東洋医学(漢方、鍼灸など)全般のほか、食養生、プロバイオティクス、呼吸法、太極拳、波動医学、その他アーユルヴェーダやユナニ医学などの伝統医学からニューサイエンスと呼ばれている医療としてはまだ認知されていない現代科学的最先端医学まで、幅広い医療分野を指します。

そして、代替医療のみならず、現代西洋医学も含めて実践する医療が統合医療。

症状だけではなく、その人の性格や暮らしなども含めて診断することから、全人的な医療、ホリスティック医学と呼ばれることもあります。

統合医療の基本は、ひとりひとりの患者に対し、様々な方面から診ることで多面的に捉え、最適な医療をコーディネートすることにあります。

また、医療へのアクセスも重要です。

住んでいる地域に、最良の医療があることが、理想的かつ自然な医療のかたちです。

講師は、朝霧高原診療所の院長先生である山本竜隆さん。過疎化・高齢化により僻地に医

療が届かなくなっている中で、地域医療とインバウンドと絡めた養生医療の両輪で、医療の問題に取り組んでいます。

そのご活動を踏まえて、経験的事実として利用される代替医療・自然療法と近代西洋医学とを合わせた統合医療の可能性、地域医療の在り方について議論します。

【場所】

静岡県富士宮市

【講師】

山本 竜隆 / 朝霧高原診療所 院長、昭和大学医学部客員教授

【課題図書】

『自然欠乏症候群一体と心のその「つらさ」、自然不足が原因です』

著者：山本 竜隆（ワニブックスPLUS新書）

【参考図書】

『漢方のプロが教える最高の体調をつくる食事術Kindle版』

著者：山本 竜隆，石部 晃子（アスコム）

【参考サイト】

フィールドワークおよび宿泊場所になる[日月倶楽部](#)、[富士静養園](#)のホームページ

【参考写真】



10月16日(土)14:00～16:30

【テーマ】住居

【タイトル】

【16】気候・風土・暮らしとつながる住まいづくり 開かれた建築

【概要／狙い】

経済的価値を偏重するあまり、世の中の多くのことが商品化してしまいました。

住宅もまた産業化され消費されていく「商品」となってしまったのではないのでしょうか。

住宅は一時的な商品価値ではなく、もっと長い時間軸の中で価値を判断していくことが必要であると思います。商品から生命中心の経済、社会、暮らしへの転換が必要です。

伝統的な家屋には、気候風土との関わり、自然との応答の中で培われた技術と知恵によって造られ、その土地でとれる材料、地域の資源や技術を使う「地産地消」が基本で、それが地域ごとに特色ある風景を生み出してきました。

日本の伝統的な住まいづくりには、驚くべき技術と知恵が詰まっています。

気候・風土・暮らしとつながる住まいづくりで、生態系の仕組みを暮らしのデザインに生かした関係性のデザインをされてきた山田貴宏さんに自ら設計し、住まわれている神奈川県藤野にある里山長屋を見学させていただきながら、普遍的な住まいの価値とは何なのか、これから長く持続していく住環境を考えていきます。

【場所】

神奈川県相模原市旧藤野町

【講師】

山田 貴宏 / ビオフォルム環境デザイン室 代表

【課題図書】

『里山長屋を楽しむ』

著者：山田貴宏(学芸出版社)

【参考サイト】

[NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン](#)

【参考写真】



10月17日(日)時間調整中

【テーマ】地域づくり3

【タイトル】

【17】僕らが変わればまちが変わり、まちが変われば世界が変わる
トランジション・タウンという試み

【概要／狙い】

トランジション・タウンの「トランジション」には、「移行する」という意味があります。トランジション・タウンとは、2005年秋にイギリス南部の小さな町トットネスで、パーマカルチャーの講師であったロブ・ホプキンスにより立ち上げられました。

大量消費大量廃棄を前提とした現代の資本主義型システムから移行し、持続可能なまちづくりを市民が自発的に地域の暮らしを考え、行動し、意識をもって日々の暮らし方を変えていこうとする草の根運動です。

神奈川県旧藤野町、都心より約1時間の距離にありながら、山や湖など自然豊かな山間にある人口約1万人の、のどかな町です。

また芸術の振興に力を入れる芸術の町として知られ、町のいたるところに芸術作品を見ることができます。

この豊かな自然と文化が共存する町が今、持続可能な町づくり、トランジション・タウンの活動で注目を集めています。

日本で初めてトランジション・タウンに取り組んだ「トランジション藤野」の持続可能な暮らしと日々の活動について、現地でお話を伺います。一般的な行政主体のまちづくりではない、その地域に住む人たちによる市民活動が、どのようにして、持続可能な暮らしをつくっていったのかを学んでいきます。

【場所】

神奈川県相模原市旧藤野町

【講師】

トランジション藤野(当日の講師は調整中)

【課題図書】

僕らが変わればまちが変わり、まちが変われば世界が変わる
トランジション・タウンという試み

著者: 榎本英剛

【参考サイト】

トランジション藤野

<https://ttfujino.net>

10/27(水) 19:00～21:30

【テーマ】エネルギー

【タイトル】

【18】再生可能な自然エネルギー～エネルギーの地産地消～

【概要／狙い】

日々の生活で無意識のうちにもいろいろなエネルギーに触れ、エネルギーを使って生活を送っています。

少し前までは電気やガス等のエネルギーは、大手企業から購入するサービスのひとつであり、生産と消費が切り離された状態でした。

しかし近年、地域で使うエネルギーを地域内で生み出す取り組みが全国各地で広がっています。

太陽光、風力、小水力等による発電やバイオマスを利用した発電および熱エネルギーの利用などその数も年々増加しています。

今回の講義では、地域のエネルギー自給について実践されてきた井筒耕平氏を講師としてお招きし、岡山県西粟倉村の「あわくら温泉元湯」の事例や、北海道で実施予定のバイオマスエネルギー事業について学びます。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

井筒 耕平 / 株式会社sonraku 代表取締役CEO

【課題図書】

[ローカルニッポンの記事](#)

[Energy shiftの記事](#)

【参考文献】

人は100Wで生きられる～だいち先生の自家発電「30W生活」～/高野雅夫

【参考写真】



11月7日(日) 12:00～15:00(予定)

【テーマ】多様性社会1

【タイトル】

【19】人権問題について考えよう ～ウポポイ民族共生象徴空間を訪ねて～

【概要／狙い】

本遠征では、ウポポイ民族共生象徴空間を見学することで、人権問題を取り上げ、多様性社会について広範な視界で議論します。

我々の望む多様性社会とはどのようなものでしょうか？

そのような社会を実現するために、必要なことはどんなことでしょうか？

我々はどんなことに注意していく必要があるでしょうか？

みんなで考えてみましょう。

【場所】

北海道白老郡白老町

[ウポポイ民族共生象徴空間](#)

【講師】

なし

【参考写真】



11月8日(月)9:30～14:00(予定)

【テーマ】多様性社会2

【タイトル】

【20】多様性の活かし合い ～弱さから始まる仕事と社会～

【概要／狙い】

浦河べてるの家は、精神障害をかかえた人たちの有限会社・社会福祉法人です。その特徴は、病気を治療し、社会復帰をめざすのではなく、悩み、弱さをそのまま受け入れ、問題だらけの人生を肯定する力の獲得をめざしていることです。

日高昆布の通販からはじまり、農産物・海産物の事業も行っています。「べてるの家」は生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を有しており、100名以上の当事者が地域で暮らしています。

本講義では、当事者ミーティングを見学し、当事者の作業のお手伝いをさせて頂く中で、きれいごとではない社会的包摂の現場とその知見を学びましょう。

【場所】北海道浦河町

【講師】なし

【課題図書】

『べてるの家の「当事者研究」(シリーズ ケアをひらく)』著者:浦河べてるの家

【参考情報】

べてるの家とは <https://urakawa.bethel-net.jp/>

【参考写真】



11月24日(水) 19:00～21:00

【テーマ】衣服

【タイトル】

【21】天然繊維の再興～オーガニックコットン事業を通して～

【概要／狙い】

世界中の農薬の20パーセントが綿花栽培に使われています。

綿花栽培は大量の水を使うので、世界最大の綿花の産地、アラル海が干上がり、塩害が生じ、その地域に住む人々は甚大な健康被害にあっています。

また、バングラデシュでファストファッションメーカーの工場が入ったビルが倒壊、1100人以上が亡くなるという大惨事もありました。化学繊維もどんどん増えており、化学物質による肌への負担、環境ホルモン・化学繊維・静電気が発生しやすいといったことから様々なアレルギーや病気につながるものが懸念されます。

過剰な広告、ファッション業界の「計画的陳腐化」計画に乗せられ、流行に流され、日本人は一年間で10キロの洋服を買い、8.5キロを捨てています(2009年)。

また、日本の衣服の自給率は何%かご存知でしょうか？ 普段、当たり前のように身に付けている衣服についてもいろいろな課題が存在しています。本講義で参考にするのは、オーガニックコットンのパイオニア、アバンティ。

厳しい検査基準を満たしたオーガニックコットン、日本の職人の手による顔の見えるものづくりは、現代の資本主義の論理のアンチテーゼです。

代表であり、様々な活動をされている渡邊智恵子さんに、市場経済の中では難しいオーガニックコットンの事業化、業界動向について伺い、衣服の未来について一緒に考えます。

事前にアバンティのオリジナルブランド「プリスティン」のショップをのぞいていただき、講義にのぞんでみてください！

【場所】

オンライン (Zoom)

【講師】

渡邊 智恵子 / 株式会社アバンティ 代表取締役社長

【課題図書】

『ワタが世界を変える』

著者: 田畑健 (地湧社)

【参考図書】

『女だからできたこと オーガニックコットンのロールスロイスを目指して』

著者: 渡邊智恵子 (budori)

【参考サイト】

[プリスティンのホームページ](#)

【参考写真】



12月5日(土) 14:00～17:00

【テーマ】サテライトオフィス

【タイトル】

【22】地域に溶け込むサテライトオフィス ～都会からの人材と地域を繋ぐ～

【概要／狙い】

徳島県の小さな漁村である「美波町」は日本一のサテライトオフィス出展企業数(20社)を誇ります。

都心から企業社員やデザイナーが移住し、祭りなどにも積極的に参加し地域に溶け込み、家族を作り増やしています。

企業社員が出張時に家族で訪れ、子供を美波町の小学校に通わせる「デュアルスクール」も実現。

それらの仕掛けを成功させている地域活性会社「あわえ」の代表である吉田基晴代表の話をうかがい、美波町の取り組みから都市企業と農山漁村の幸福なコラボレーションを学びます。

参照: [総務大臣表彰を株式会社あわえが受賞、ICTを活用した地方創生モデルの構築で](#)

【場所】

徳島県美波町

【講師】

吉田 基晴 / 株式会社あわえ 代表取締役社長

【課題図書】

『本社は田舎に限る』

著書：吉田基晴（講談社+α新書）

【参考サイト】

[株式会社あわえのホームページ](#)

【参考写真】



12月6日(日)日中

【テーマ】ゴミ・リサイクル

【タイトル】

【23】ゼロウェイスト ～資源循環の輪を繋ぐ～

【概要／狙い】

「循環型社会」を考えるとポイントになるのは、廃棄物の処理・再資源化になります。

人間が活動すればするほど増えるのは、廃棄物と糞尿だからです。

焼却・埋め立て・何でもリサイクル・科学的処理がもたらしたのは、資源の無駄遣いと有害物質による健康被害と水質汚染など環境への悪影響だと言えるでしょう。

本講義では、ゼロ・ウェイストを問う考え方を学びます。

ゼロ・ウェイストとは、無駄・ゴミ・浪費をなくすという意味で、出てきた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもゴミを生み出さないようにしようという考え方で、社会の仕組みを変えていこうとするものです。

講義を通して、資源循環の在り方を学び、議論します。

【場所】

徳島県上勝町

【講師】

パンゲアフィールド(調整中)

【課題図書】

[持続可能なまちは小さく、美しい 上勝町の挑戦](#)

著者：笠松和市、佐藤由美(学芸出版社)

【参考サイト】

[上勝ゼロ・ウェイスト宣言](#)

【参考写真】



※上勝ゼロ・ウェイスト宣言HPより画像拝借しております。

12月7日(月)日中

【テーマ】地域づくり4

【タイトル】

【24】創造的過疎から考える地方の創生 ～徳島県神山町の取り組み～

【概要／狙い】

徳島駅から車で40分ほどの山間部にある人口6300人のまち、徳島県神山町。

2011年度、転出者が139人に対し転入者が150人と、町の制定以来初めて転出者が転入者を上回りました。

町内全域に完備されたWi-Fi環境が後押しし、多くの企業がサテライトオフィスを開設。

NPO法人グリーンバレーが、神山に数多くある古い空き家を、移住希望者に紹介し、安値で住居やオフィス、アトリエとして使ってもらうなどの取り組みも目立ちます。

2019年6月には、神山町に設立予定の私立高等専門学校「神山まるごと高専」という新しいプロジェクトが発表されました。

神山まるごと高専は、町と町民と民間が協働してつくる次世代型の高専として、その動きに注目が集まっています。

「創造的過疎」とは一体何なのか。神山町を視察し、その真髓を学びましょう。

【場所】

徳島県神山町

【講師】

NPO法人グリーンバレー(調整中)

【課題図書】

[神山プロジェクト](#)

著者：篠原 匡（日経BP）

【参考サイト】

[イン神山](#)

[神山まるごと高専](#)

【参考写真】



※イン神山HPより画像拝借しております。

12月15日(水)19:00～21:30

【テーマ】教育

【タイトル】

【25】遊びが学びに欠かせないわけ～自立した学びを育てる～

【概要／狙い】

スウェーデンの自然学校やプリスクールで学校の教師の多くが授業で実践しているアクティビティがギョッと詰まった算数の野外教育というものがあります。

野外で身体を動かし、五感をフルに使い、身体全体で算数を学びます。野外に出ることで、子どもたちの学びにたくさんの効果が得られます。

「遊び」や「楽しさ」は、学びにとって大切な要素です。教室の中の知識としての学習と、野外での体験をうまく組み合わせながら、子どもたちは学びを深めていきます。

本講義では、海外の環境教育を視察し、日本の環境教育との交流を行ってきたNPO法人当別エコロジカルコミュニティ代表理事山本幹彦さんから「野外で算数」の必要性和意義を学び、これからのわたしたちの目指す教育の在り方、自立した学びを育てることについて、議論します。

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

山本 幹彦 / NPO法人当別エコロジカルコミュニティ

【課題図書】

『遊びが学びに欠かせないわけ - 自立した学び手を育てる』
ピーター・グレイ【著】築地書館

【参考サイト】

[合同会社ラーニング・アウトドアのホームページ](#)

【参考写真】



1月15日(土)9:00～15:30(予定)

【テーマ】漁業

【タイトル】

【26】魚食の再考 ～日本の漁業問題と近海で取れる未利用魚のさばき方レクチャー～

【概要／狙い】

古来より海に囲まれ、多くの島々と長い沿岸と広い海を持つ日本では海からとれる魚介類は貴重なタンパク源や田畑の肥料として利用されてきました。

日本近海には現在およそ3300種の魚介類が生息しているとみられ、このうち、主に257種が食用に利用されていると推定されます。

古くから漁獲量、品質が時期や産地によって大きく変動する海の恵みをその時の自然状態に合わせる形で、有効利用することによって、その土地、その土地で特有の魚食文化が育まれてきました。

しかし、食習慣の変化によって魚介類と肉類の消費量が逆転するなど、それまで親しまれて継続されてきた様々な魚食の習慣が衰退しはじめ、消費される魚介類にも大きな偏りが見られるようになってきました。

日本漁業の問題点は、マグロやサバなどメジャーな種類の魚の資源問題ではなく、近海で取れるマイナーな魚の活用にあるのです！

健康な食生活への関心が高まってきている現在、魚食の文化と習慣は世界的にも注目が集まっています。

本講座は水産資源の持続的利用と衰退してきている人と魚と海の関係の再構築を目指す団体、アクアカルチャーさんを招き、日本近海の漁業と魚食の展望を学び、魚の捌き方レクチャーを受けます。捌き方をマスターすることで、魚食を日常に取り戻します。

【場所】

千葉県君津市周辺

【講師】

魚食普及団体 アクアカルチャー

【課題図書】

『日本人が知らない漁業の大問題』

著者：佐野雅昭（新潮新書）

【参考サイト】

【参考写真】



1月16日(日)9:00～15:30(予定)

【テーマ】狩猟

【タイトル】

【27】狩猟とジビエ ～人と獣の共生関係～

【概要／狙い】

近年中山間地域を中心に鳥獣被害が深刻な状況にあります。

鳥獣による農作物への被害額はおよそ200億円で、その6割が獣類、4割が鳥類によるものであり、獣類では9割がイノシシ、シカ、サルによるものとされています。主な原因は餌となる広葉樹が少なく針葉樹が増えたこと、集落の過疎化・高齢化による人間活動の減少などとされています。

しかしながら、これらは人間目線での話です。動物はずっと山の中に住み、動物と人間は自然界において共生してきたはずで、人間目線だけではなく、自然界全体で見たときに動物と人間はどのように共生できるのでしょうか。

本講義では参考にするのは、千葉県君津市で廃校を活用し、猟師工房ランドを立ち上げた原田祐介さんです。原田さんは狩猟を通じて自然を守るということについて考え、鳥獣被害問題解決に取り組んでいらっしゃる方です。

狩猟の現状と課題、駆除した獣を無駄にせず適切に処理することについて考えます。

※獣の解体も行います。

【場所】

千葉県君津市

【講師】

原田 祐介 / 猟師工房 代表

【課題図書】

『けもの道の歩き方 猟師が見つめる日本の自然』

著者: 千松信也(リトル・モア)

【参考サイト】

[猟師工房ランドの紹介記事](#)

【参考写真】



1月29日(土) 14:00～16:30(予定)

【テーマ】福祉

【タイトル】

コミュニティナース ～人とつながり、まちを元気にする～

【概要／狙い】

医療格差、高齢化などの解決策として注目されるのが、コミュニティナースです。

コミュニティナースは、いつも地域の中において、暮らしの身近な存在として『毎日の嬉しいや楽しい』と一緒に作り、『心と身体の健康と安心』を実現します。

病院や福祉施設、訪問看護に従事するなどの医療資格者に限らず、地域の中で住民とパートナーシップを形成しながら、その専門性や知識を活かして活動する人たちと実践のあり方です。

講師矢田さんが代表を務めるコミュニティナースカンパニーでは、以下のようなコンセプトを掲げ、健康的なまちづくりに貢献することを目指しています。

コミュニティナースが大切にしていること

1. ふと思い浮かべた人が元気でいられるよう、自分から関わります。
2. 「いつも応援してくれる〇〇さん」と思われ、安心できる存在になるために、誠実に向き合います。
3. 「私もそんなことがしたいな」という人を見つけ、まちで仲間を増やします。

コミュニティナースという社会実験を通じて、地域の声・みんなのアイデアが形になり、健康で幸せな人があふれていくそんな未来を信じて進めているのです。

本講義では、コミュニティナースの取り組みを学び、地域での健康のあり方や作り方、更には、幸せなまちとは？元気なまちとは？何かについて考え、議論します。

【場所】

島根県雲南市

【講師】

矢田 明子 / Community Nurse Company 株式会社 代表取締役

【課題図書】

『コミュニティナース —まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師』

著者: 矢田明子(木楽舎)

【参考動画】

[コミュニティナース活動紹介ムービー](#)

【参考写真】





1月30日(日)日中

【テーマ】ものづくり&地域づくり5

【タイトル】

【29】石見銀山大森町 ～群言堂が考えるサステイナブルな地域づくり～

【概要／狙い】

「群言堂(ぐんげんどう)」は「株式会社石見銀山生活文化研究所」が展開するライフスタイルブランドです。

世界遺産登録された石見銀山遺跡のお膝元、人口400人の島根県大田市大森町に根を下ろし、手仕事が美しい服や古民家再生など、持続可能な衣・食・住・美の文化を伝えています。

群言堂は、衣類を中心に日本の古き良き生活文化から学ぶ、根のある暮らしを提案しています。時代に合わせて新しいモノやコトを創り出す「復古創新(ふっこそうしん)」という考え方をベースにして、暮らしを第一に考え、日本の技術を活かしたものづくりに取り組んでいます。

2016年11月、ユネスコ初のESD(持続可能な開発のための教育)専門家会議が大森町で開かれました。

それから3年後の2019年3月、その次の取り組みとして、「第1回ユネスコESDリーダーシップシンポジウム」が大森町で開かれ、アジアを中心に8ヶ国から教育部門のリーダーが集まり、大森町の持続可能な取り組みを視察・議論されました。

参照：[ユネスコリーダーシップシンポジウム、ブータン教育大臣のインタビュー動画](#)

「日本の地方で持続可能な生き方を学ぶ」という世界規模のテーマに大森町は選ばれており、群言堂は持続可能なものづくりから地域づくりを推進しています。

本講義では、群言堂が考えるサステイナブルなものづくりの考え方と取り組みを学び、サステイナブルな地域づくりのあり方や作り方について考え、議論します。

【場所】

島根県大田市大森町

【講師】

松場 忠 / 株式会社石見銀山群言堂グループ 取締役

【課題図書】

『世間遺産放浪記』

著者: 藤田 洋三 (石風社)

【参考サイト】

[群言堂のホームページ](#)

[石見銀山・大森町のホームページ](#)

【参考写真】



2月9日(水) 19:00～21:30

【テーマ】思想・哲学2

【タイトル】

【4】関係人口を哲学する ～“あいだ”を生み出す都市と地方の共生とは～

【概要／狙い】

一日中頭ばかり使い、身体性が喪失していく社会を、解剖学者の養老孟司さんは「脳化社会」と命名しました。脳化が進む都市で、生きる意義やリアリティに飢える都市住民は増加の一途にあります。

一方で、農業など地方で一次産業に携わる方々は、生活に最低限必要な食べ物を自らの手でつくっていますが、そこには分かりやすい「生きる」という営みがあります。

そして《あいだ》の喪失。自然を排した都市で暮らす私たちと自然には《あいだ》がありません。関わりがなければ、関心を持たないのです。

だから、環境汚染や地球温暖化は止まらないのだと思います。97%の消費者と3%の生産者の分断は、そのまま都市と地方の分断につながっています。

東京一極集中の裏側で進む、地方の農山漁村の衰退。

人間が生きるために必要な食べ物や空気、水を生み出す自然に手をかける人間が減っているというのに、都市住民はまるで他人事のように無関心を決め込んでいるようです。

私たちは暮らしや社会に《あいだ》を取り戻す必要があるのではないのでしょうか。

最近、よく言われるようになったワード「関係人口」について哲学しましょう。

よろしければ、事前に下記サイトよりお好みの特産品をご購入ください。

[講師の高橋さんが代表を務める「ポケットマルシェ」のサイト](#)

【場所】

オンライン(Zoom)

【講師】

高橋 博之 / 株式会社ポケットマルシェ 代表取締役

【課題図書】

『都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡』

著者:高橋 博之(光文社新書)

【参考写真】

